



～2023-24年度主題～
 国際会長 ウルリック・ラウリドセン
 “Let Your Light Shine”
 アジア太平洋地域会長 利根川恵子 (川越C)
 “Be the light for change”
 東日本区理事 山田公平 (宇都宮C)
 “Instil Confidence in our Youth”
 湘南・沖縄部長 黒川 勝
 “初心に帰り、新たな船出を踏み出そう”
 クラブ会長 今城高之
 “Enjoyment first and foremost ! ”
 (楽しく、何はさておき楽しく！)

2022-2023 クラブ役員	
会長	今城 高之
副会長	鈴木 茂
直前会長	辻 剛
書記	岡田 美和
会計	横田 孝久

今月の聖句

「はっきり言うておく。
 一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」
 (ヨハネ12・24)

3月本例会

- 日時 3月22日(金) 17:30～
 場所 かけはし都筑
 司会 大野君枝 受付 坂口直樹
 4月巻頭メッセージ 鈴木恭子
 ～次第～
 1.開会点鐘 会長
 2.ワイズソング・信条唱和 一同
 3.今月の聖句
 4.会長挨拶
 5.ピジター紹介
 6.卓話 前山 匡洋さん
 「TV番組制作よもやま話」
 7.報告事項
 8.YMCA報告 鴨下館長
 9.Happy Birthday
 相賀 昇 3/22
 辻 孝子 3/31
 10.アピール
 11.閉会点鐘

※閉会后、最寄りの場所にて懇親会食会を行いますので参加ください。

《巻頭メッセージ》

別れと出会い

山添 訓

3月、別れという寂しい気持ちになること、4月からの新しい出会いに向けた準備をしながら、ワクワクする気持ちが入り混じる何とも言えない感情があります。また、イースターを迎えるレントの中、イエスキリストが十字架にかかってくれたことを覚えながら生活する日々です。



コロナ禍において、対面での取り組みが制限されていた時から、2023年度の5月以降は、徐々に対面での取り組みが増えました。会議も対面で行われるものが増え、YMCAでも海外交流プログラムが再開しました。対面で行えるようになったから、コロナ前に戻るのではなく、コロナ禍で経験し、学んだことを活かしていくことが大切に思います。会議はハイブリットで行われ、対面だと会場に間に合わないが、オンラインで参加できることで、会議自体の参加者は対面で行っていた時より、平均的に多くなっていると感じます。講演会や上映会に関しても、会場のみの実施では参加できない遠方からの参加者が増えたように感じます。出会う機会だけ考えれば、コロナ禍で経験したオンラインでの取り組みが、対面のできるようになった中ではありますが、オンラインと併用することで、出会う機会は増えているように思います。

もう一方で、対面のできる喜びを感じています。やはり、深い意見交換や協議、その人を深く知るには、対面で表情やしぐさなどを感じながら会話がすることは、本当に幸せなことだと思います。24年度4月に入職する学生と人をつなげるきっかけはどのように作るかという会話で、学校の授業は、コロナ禍でオンライン授業が殆どであったとのことで、SNSで関係を作ってから友人関係になるのかと想像していたら、まずは、その人と会って、どのような人かを知って、関係が続けばLINEの交換などをするとのことでした。また、若い人は、飲み会の席には行きたがらないという話も聞いたことがあります。そんなことはないと話してくれた学生も多かったことに驚かされました。そんな話を聞き、人との関係づくりの考え方も変わってきているのかなと思いました。

今年度も残りわずかとなりました。自分に取っては、別れですが、その人にとっては新しい歩の始まりでもあり、そのお一人おひとりの歩みに、神様のお守りとお導きがあることを祈りたいと思います。

今日も命を与えられ生活し働くことができていることに感謝をしております。世界に目を向け、日本においても紛争や自然災害、感染症など困難な中にあり、生きることに希望が持たなくなっている人たちがおり、平和な社会とは言えない現状です。1日でも早く平安な時が訪れるように祈ります。

最後に聖書の言葉を添えて終わります。

「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人をつなげてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。」
 ヨハネによる福音書17章21節

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《新入会員紹介》

去る2月23日のクラブ本例会の際に入会式が行われ、新たに二人の会員が私たちの仲間に加わりました。お二人から寄せられた自己紹介を掲載します。

エスキルドセン・ロバートと申します。

横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブに参加させていただき、本当にありがとうございます。

私について簡単に紹介させていただきますと、カリフォルニア大学パークレー校を卒業し、その少し後に初めて来日しました。来日の目的はアジアの全く新たな言語を学びたく、主に日本語の習得でした。遅いスタートで時間はかかりましたが、ある程度の日本語ができるようになり、国際基督教大学に入学し近代日本史を専攻し修士号を取得しました。アメリカに帰国してスタンフォード大学で近代日本史の博士号を取得し、30年以上前から大学教授として働いています。10年前に国際基督教大学に着任し、現在は学務副学長を務めています。ワイズメン&ウィメンズクラブとのご縁は、12年前に妻の水谷裕子から「You&コンサート」のお手伝いを頼まれたことがきっかけでした。皆さまは初めて会う私を温かく迎え入れて

下さって、素晴らしい障がい者支援のイベントを協力して開催することができました。私はワイズの皆さまの人々に対するオープンな姿勢とサービス（仕える）の精神に感銘を受けました。これから共に活動できることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



水谷裕子（ミズタニヒロコ）と申します。

私と横浜つづきワイズメンズ&ウィメンズクラブとの出会いは、15年前の2009年に都筑区社会福祉協議会の紹介で「傾聴研修」を数回にわたり担当させて頂いたご縁でした。これからクラブとしてボランティア活動を深めて行くにあたって、人のお話をよりよく聴く方法を学びたいと、皆さん熱心に学ばれ、早速傾聴ボランティア活動を開始され、2011年の大震災の時には被災地への支援活動も始められました。皆さんの熱心な奉仕の心と実践力には、これまでにない新たな日本人のシニアグループの理想像を感じていました。

私と夫のロバート（ロブ）が2012年秋に、「傾聴と対話による支援を主軸とする」特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワークを設立し、居場所のない不登校児やひとり親家庭等の支援を開始した時も、たくさんの応援と励ましを頂き心強い思いでした。

また「You&コンサート」には初回から運営団体として、障がい者も健常者も共に楽しめるユニークなクラシックコンサートが誕生した現場に参加してきました。（私もシニアになったら、いつかメンバーに加わりたいな!!）と常々思っていたが、この度、「ワイズの空気はインターナショナルでとても居心地が良いんだよ。」と語る夫と一緒に入会させて頂くことになりました。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

《お便り》 東日本大震災発災から13年が経過しました。復興が進んだとはいえ、未だ癒えない様々な傷があるかと思えます。クラブの被災地支援担当 辻 剛ワイズのお見舞いの手紙につばめの杜保育所の喬橋所長ご返事がありました。

横浜つづきクラブの皆様

辻 剛 様

ご無沙汰しております。

皆様お変わりはありませんか。

今年も3.11が過ぎました

3月10日（日）には、バンキシャ！の取材があり、山元町が生放送されました。山元町は、いままで、たくさんの方の温かい支援や励ましのお言葉をいただき、復興への歩みを一歩ずつ進めてきました。

そんな中・・・元旦早々の、能登半島地震・津波のニュースを聞き大変驚きました。13年前の東日本大震災のあの時を思い出し、胸が苦しくなる思いでした。

日に日に被害の状況がわかり、ニュースが流れるたびに、寒さの中、暖も取れず電気や水が切断された状況が続いているのを聞くと、自分たちのことのように辛くなります。

自分たちが出来ることは震災について一つ一つ丁寧に子ども達に伝えていくこと・・・絶やさないようにしていきたいと思えます。

横浜つづきクラブの皆様には、これまでたくさんの支援や毎月の素敵な誕生カードを送っていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、お会いできる日を楽しみにしております。

体調を崩されないようお気を付けてお過ごしください。

横浜つづきクラブの皆様にもよろしくお伝えください。

つばめの杜保育所

所長 高橋由紀様

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《本例会報告》

横田 孝久 記

日時：2024年2月23日（17:00~18:45）

@夢カフェ

出席：今城T・H、大野、岡田、鴨下、坂口、鮫嶋、鈴木K・S、辻Ta・Ts、横田。

新入会者：ロバート・エスキルドセン、水谷裕子

ゲスト：遠藤真理、佐藤節子

司会：辻 剛 受付（記録）横田孝久

～次第～

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・ワイズの信条唱和
3. 今月の聖句と祈祷 相賀チャプレンが欠席の為、鈴木 茂ワイズがお祈りを代読
聖句：イザヤ書 58 - 6
4. 会長挨拶・ゲスト紹介
当日入会されるロブ（愛称）さん、水谷裕子さんご夫妻、入会式立ち合いのため参加いただいた佐藤節子湘南・沖縄部会員増強事業主査、横浜YWCAの遠藤真理さんが紹介された。
コロナ感染で、残念ながら1月に入会式が出来なかったエスキルドセンさんご夫妻の入会式が出来ることは喜びです。また、入会式に立ち合ってください佐藤節子さんには感謝に絶えません。
5. 佐藤節子さん立ち合いのもと入会式が行われ、式文の朗読と6項目の宣誓があり、会員バッジとワイズグッズの贈呈があった。
佐藤節子さんより入会されたお二人歓迎とお祝いの言葉を頂きました。
6. 横浜YWCAメンバーで横浜YMCA常議員の遠藤さんより、YWCAが企画しているミャンマー支援のチャリティーコンサート（本年11月開催予定）への協力要請があった。同盟田口総主事の助言で、コンサートを毎年開催している当クラブにサポートをお願いしたいとのアピールであった。
YWCA本部と一クラブとのタイアップについては少し無理があるのではないか、区ワイズや横浜YMCA等々と

のかかわりなど全体を考える必要があるなどの意見が
 交わされた。

現時点で当クラブとしては運営などのアドバイスやチ
 ケットの販売などで協力 出来る事はさせていただくと
 した。

7. 5月度の富士山例会について会長より計画案と費用について報告と提案があった。
今後さらに詳細を詰め、湘南・沖縄部各クラブへも案内する。
8. YMCA報告
①新入会者に「担当主事とは」の説明。②能登地震募金にクラブからの募金頂いた旨の報告③3月9日の合同懇親会についての案内があった
9. その他アピールとスマイル
今月のハッピーバースデーは山添さんですが、欠席の為来月にした。
10. 閉会点鐘：
閉会后、「ピンクシャツディ」の記念撮影を行い、引き続き、センター北の「ラ・メゾン」で新入会者の歓迎会を兼ね懇親会を行った。



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《第101回Y-Y's協議会 報告》 鈴木 茂 記

開催日時：2024年3月5日（火）19:00-20:00

会場：横浜中央YMCA 6階 608教室 + Zoom

担当クラブ：厚木クラブ

出席者：20名（当クラブからの参加者：今城T、

鴨下担当主事、鈴木S、

辻Tsu（Zoom 参加）

～概要～

開会礼拝：阿部正伴・厚木クラブ担当主事による聖書朗読、祈禱によって開会礼拝が持たれた。

挨拶：横浜YMCA・佐竹総主事及び湘南・沖縄部・黒川部長より、横浜YMCAとワイズメンズクラブ湘南・沖縄部との101回目のY-Y's協議会が開催できることへの感謝と同慶の挨拶があった。

協議 司会：厚木クラブ・佐藤節子会長

1. Y-Y's協議会の今後の在り方について

前回の部評議会において、戸塚クラブ・若木ワイズから、本協議会について各クラブの負担軽減を図るために、回数や出席メンバーを減らすことを検討してはどうかとの提案があった。これに対し、黒川部長から書面により、従来の3月、6月、9月、12月の年4回の協議会のうち、6月と12月は部評議会との間隔が接近しているので、その出席者は①6月：YMCA出席者+部役員と各クラブ会長（またはその代理者）のみ、②12月：YMCA出席者+部役員のみ、としてはどうかとの提案があった。

一方、佐竹総主事からはYMCA側としては、出席者は原則として部及び各クラブ担当主事で変更の予定はないこと、回数を減らすことは考えていないとの、意向表明があった。

これに対し出席者から、(1) 開催月によって出席者構成に変更があるのは紛らわしい、(2) 協議会への出席者を制限することは好ましくない、(3) 開催回数を減らすことも検討すべき、(4) 従来の第1火曜日という開催日を変更してはどうか、等の意見が出された。

久保次期部長の執行部で、さらに検討を進めることで結論は持ち越された。

2. 2024年度横浜YMCAイベント及び周年行事：

阿部・担当主事より、横浜YMCAの2024年度主要行事として、次のイベント、周年行事の紹介があり、ワ

イズの出席、協力の要請があった。

- * 横浜YMCA会員総会：2024年5月25日（土）
- * AIDS文化フォーラム：2024年8月2日（金）～4日（日）
- * 横浜YMCAフェスタ：2024年9月23日（月）
- * 横浜YMCA140周年記念礼拝：2024年10月（日程未定）
- * チャリティーラン：2023年10月19日（土）
- * 横浜Yクリスマス礼拝：2024年12月21日（土）
- * 横浜Y会員大会：2025年2月11日（火）

3. 横浜YMCA報告

①阿部・担当主事より、最近の横浜YMCAの行事・活動について、次の通り報告があった。

- * 横浜YMCA会員大会—ピースフォーラム：2024.2.12、（於）湘南とつかYMCA、特別講演・桃井和馬氏（恵泉女学園大学教授）。テーマ「戦争」「平和」「未来」の作り方。参加者・会場114人、ZOOM74人、計188人。
- * 子ども支援（BAPY）基金チャリティーゴルフ：2024.3.1、戸塚カントリークラブ、参加者107名、基金への献金額約70万円。
- * 国際・地域協力募金：2月29日現在の募金額・695.4万円（目標800万円の86.7%）。

②ユースリーダーシップ開発事業委員会の三上・担当主事より、その活動について次の報告があった。

- * 横浜YMCA リーダー感謝会：3月16日（土）、中央YMCA6階にて開催予定。学校を卒業するリーダーには、感謝状、感謝の盾と聖書を贈る予定。

4. 各クラブ報告

- * 横浜：4月に2名の新入会員を迎える予定。
- * つづき：今般3名の新入会員が与えられた。5月17日（金）～18日（土）に富士山YMCAへの移動例会を計画しており、部内各クラブにもご案内している。
- * つるみ：ファンドレイジングの一環として、3か所で「歌声ひろば」を開催している。

次回予定：2024年6月4日（火）19:00-20:30、担当・金沢八景クラブ、場所・未定。

以上



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

《2024年3月度事務例会報告》

(センター南)

日時：2024年3月12日（火） 17:00~19:00
 会場：夢Café
 司会：今城高之会長 報告：岡田美和書記
 出席者：今城H・T、大野、岡田、鴨下、鮫島、
 鈴木K・S、辻T s、横田

1. 開会点鐘・黙祷
2. 会長挨拶 今城高之会長
3. 審議・検討・報告事項
 - 1) 富士山例会（5月17日（金）~18日（土）
 @富士山G E V）について
 （詳細は実施プラン案参照）
 ★主な項目
 ・10:00 センター南ターミナル集合、出発は10:15
 ・費用概算： 宿泊費、交通費、飲食費などで概算
 16,000円程度
 ・参加者募集状況： 20名余
 - 2) プリテンの編集方針について
 記事内容、体裁、割り付け、編集体制、発行頻度、
 発行日などについて話し合ったが、おおむね今までと同
 じとし、会員全員の協力が要請された。
 - 3) 今後の例会について（卓話を中心に）
 - ① 3月本例会：3/22（金） 17:30~
 @かけはし都筑
 卓話者：前山匡洋さん 懇親会は芳香園

- ②4月本例会：4/26（金） 17:30~
 @かけはし都筑
 卓話者：中村 靖さん
 「樹木がもたらす究極のやすらぎ・樹木葬」
- ③ 5月（事務例会は無し）
 富士山例会（5/17（金）~18（土）
 @富士山G E V）
 中村 敦さん（横浜YMCA常議員）に発題
 「YMCAのキャンプ事業について」をお願いし
 全員でキャンプを考える。
- ④ 6月本例会：6/28（金） 17:30~
 @かけはし都筑
 能登震災被災地支援活動に従事したYMCA
 職員からの報告（予定）
- 4) その他の予定
 5/31（金）~6/1（土）第27回東日本区大会
 6/4（火）Y-Y's協議会
 6/22（土）第3回部評議会
 9/27（金）9月本例会中止
 9/28（土）You&Iコンサート
4. 黙祷・閉会点鐘
 閉会後は有志による会食会

岡田美和 記

(2月実績)

例会出席	14名	在籍会員数	16名	各種記録	月実績	年度累計
メンバー	12名	月間出席者数	12名	スマイル	12,000円	39,153円
ビジター	1名	メキップ	1名	—	—	—
ゲスト	1名	月間出席率	81%	—	—	—



《TKBお仕事会》三月のカード作りの絵柄は、勿論お雛様です。写真は、「つばめの杜保育所」の子どもたちに向けたものです。先生からのお便りによると、子どもたちは本当に楽しみに待っていてくれるとのこと。益々気合が入ります。カード送りを始めた頃の子供達は今幾つになったのかしら、など思いながらみんなで励んでいます。
 (TI)



すくれもな新ばい新に下のうな今▼
 ておご入した任おさ二年ど日「
 おもら都会のし地礼んユ度召こ春は
 付、れ合者変てでをにし末さのは
 きおまでの化おりの申はスぬ頃の名
 合互す退嬉もりごし、が身よでのみ
 い、ク希いえす活上改伝に近うす
 を、忘ラ望話ら▼心を様れ担動皆
 (編集子) けれるからさ方いラり、なし主が、
 のとれた様す。メ祈ず活。交び風ま
 でなら方々。ンりは躍鴨代交邪の

◎◎◎編集後記◎◎◎

“To acknowledge the duty that accompanies every right”